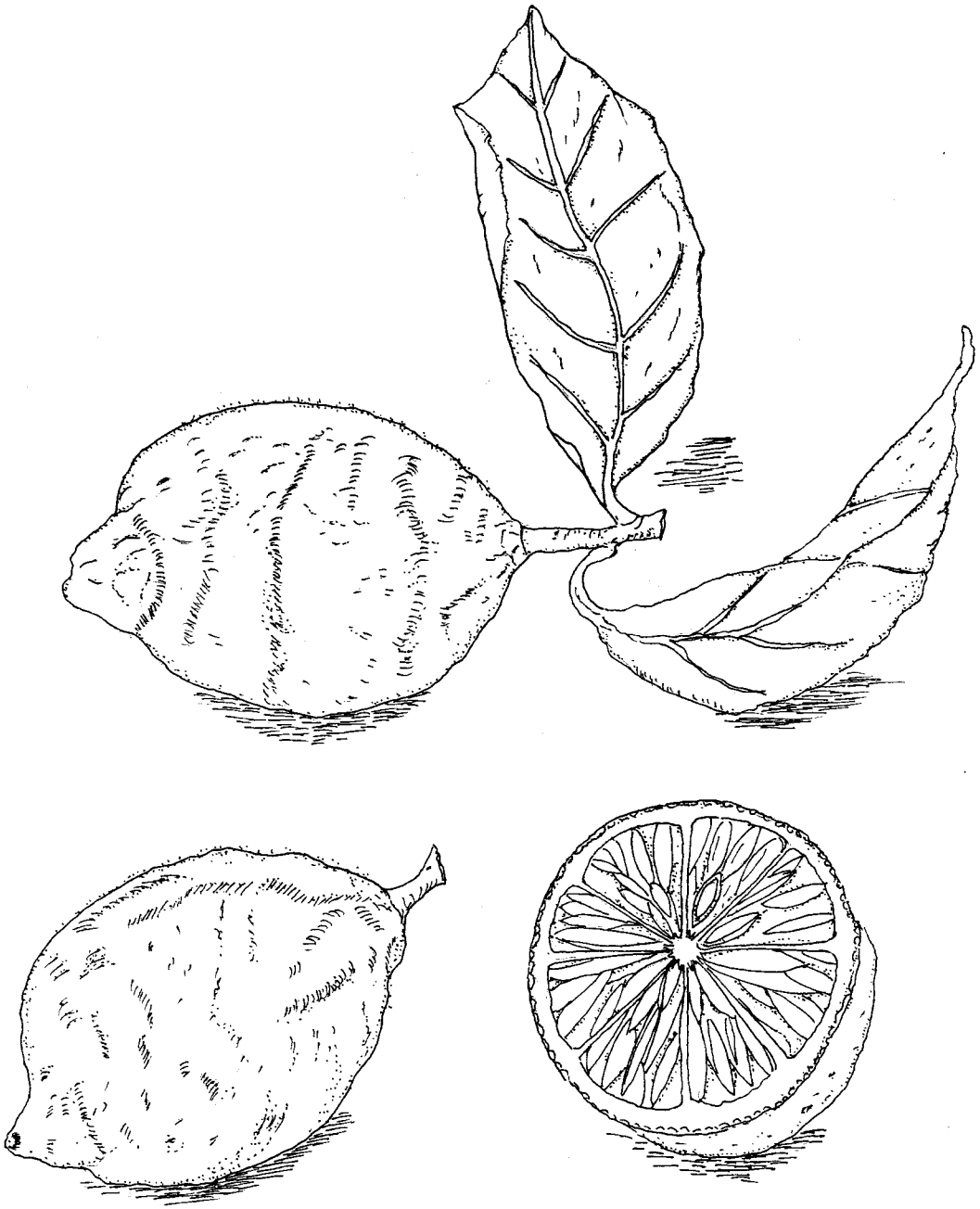
日本と朝鮮

2016.2

愛知版 No.392



＊今月の花　美濃加茂のレモン

那古野山

名古屋・大須の古墳群に注目！

須恵器の語る、朝鮮半島との興味深いかかわり

孫 在福

私が、大須に古墳があったと知ったのは、ごく最近の事である。それも、いくつかあつたと知って、驚いているばかりです。

それは、大須二子山古墳、那古野山古墳、富士浅間神社古墳、日出神社古墳など数基の古墳があって、それらを大須古墳群と呼んでいます。

まず始めに、那古野山古墳について書きたいと思います。

那古野山があつた場所は、名古屋市中区大須一九三にあつて、今の公園がある所です。那古野山公園は、寛永一六年(一六三九)創建の、清寿院境内地の公園の一部として利用されてきたが、明治五年(一八七二)九月、太政官布告により廃寺となり、明治十二年(一八七九)三月、愛知県最初の公園として、

有蓋脚付短頸壺　那古野山古墳出土

六〇〇坪の「浪越公園」となりました。

今では、浪越公園の三分の二が商店街の一部となり、那古野山古墳を含む約六〇〇平米で、直径二二米、高さ六米余の円墳状の部分のみが有り、那古野山公園として残つています。

清寿院は、富士山観音寺と称し、修験道当山派の寺院で、境内にある富士浅間神社は、明応四年(一四九五)、駿河の浅間神社より勧請して造営されたものであります。今の富士浅間神社に保存されている「須恵器」(有蓋脚付短頸壺)「一般未公開」は、元治二年(一八六五)三月、清寿院境内にあつた浪越山南麓から出土したものであります。

その「須恵器」は、「五世紀の末期に位置づけられる、東山古窯のそれよりはるかに古い型式のもので、大阪府南部の『須恵器』の大生産地であった陶邑(スエムラ)から運ばれたか、あるいは、朝鮮半島南部の『伽椰』地方から対馬海峡を越えて搬入された貴重な土器であったかもしれない。」(伊藤秋男氏「尾張を歩く」昭和五三年七月二九日「中日」)。

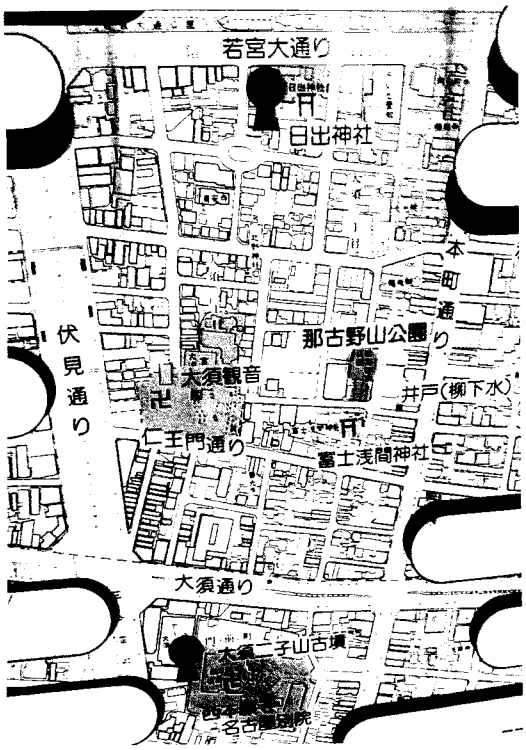
そして、垂仁天皇三年三月の条には、天日槍(あめのひぼこ)の渡来伝承には、陶人(すえびと)すなわち「須恵器」の製作者達が、朝鮮半島から随行して、今の滋賀県竜王町鏡谷(鏡村の谷)に一緒に来たと「日本書紀」には書かれていました。(日本書紀より)

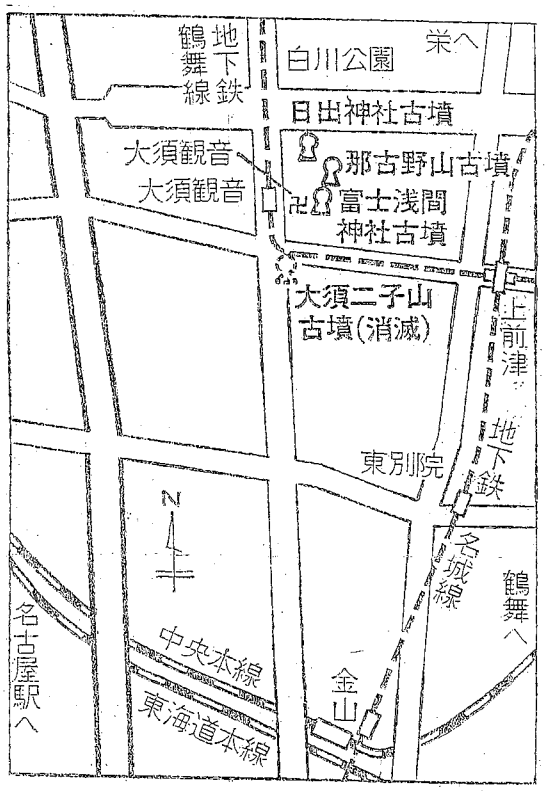
それを考えると、富士浅間神社に保存されている「須恵器」(有蓋脚付短頸壺)は、朝鮮半島から伝わつた物か、もしくは日本で伝わつて作つた物なのかはわかりませんが、いずれにしろ、朝鮮半島とは深いかかわりがあつたと思われます。

これも、大須とコリアの関係がわかる資料で、これにより私には、大須とコリアの関係は、大昔からあつたのではないかと考えられ、又一つ勉強になりました。

この大須の古墳の事を教えて頂いた諸先輩達に感謝をしたいです。

那古野山古墳の付近図





鑑賞のおすすめ 朝鮮文芸

（その8）

激動の時代、若者達とともに生きた苦難を投影

1980年代の、大韓民国を代表する作家・李文烈

伊藤一郎
（朝鮮文化を知る会）

李文烈氏（教保文庫HPより）

われらの歪んだ英雄のDVDパッケージ

李文烈は、韓国の一九八〇年代を代表する作家。当時、学生運動に参加する大学生・若者に広く読まれた作家である。

一九七七年に短編「ナザレを知っていますか(나자레를아십니까)」(一九七七年)が大邱毎日新聞新春文芸に佳作で当選し、文人として登壇後、「大邱毎日新聞」に編集記者として勤めた。一九七九年には、東亜日報新春文芸で当選。同年には中編「人の子(사람의아들)」(一九七九年)で「今日の作家賞」を受賞後、本格的な作家生活を開始した。

韓国の一九八〇年代を代表する小説家と言われており、テーマは政治的な、生活に関するものと幅が広い。日本でも一九九二年から一九九九年の間の作品四冊が翻訳本として出版されている。

李文烈の小説の特徴は、文章の構成力と自伝的要素の強さである。

筆者は学生時代、知り合いの韓国人留学生の影響で李文烈の作品を多く読んだが、専門分野の用語が多く、他の小説家と比べ辞書を引く回数が多かったという記憶がある。

上記以外の主な作品として「その年の冬(그해겨울)」(一九八〇年)、「若き日の肖像(젊은날의초상)」(一九八一年)、「皇帝のために(황제를위하여)」(一九八二年)、「英雄時代(영웅시대)」(一九八四年)、「私たちの歪んだ英雄(우리들의일그러진영웅)」(一九八七年)などがあり、その中でも「私たちの歪んだ英雄(우리들의일그러진영웅)」が代表作とされる。「私たちの歪んだ英雄」は、映画化もされている。

「私たちの歪んだ英雄」で描かれる風景は、李文烈自身の小学校時代であるが、第五共和制の権威的な権力構造を小学校内での力関係に投影させた感性、筆致は見事である。

一九八四年に発表された「英雄時代」は、李文烈一家の実話である。内容的に、八〇年代でなければ出版できなかった小説だと感じる。朝鮮戦争の際、共産主義者、パルチザンとして李文烈の父が越北した　後の李文烈一家の苦難が、リアルに描かれている。

李文烈の父親はパルチザンとして越北したため、八〇年代まで韓国に存在していた連座制によって、李文烈の一家は多くの制約を受けた。韓国の国内旅行、海外渡航は許されなかった。左記が李文烈の経歴であるが、高校資格、高校卒業の資格ともに「検定試験合格」となっている。小説の中で語られた彼の少年、青年時代の苦労が感じられる。

慶尚北道　安東中央小学校修了
慶尚南道　密陽小学校卒業
慶尚南道密陽中学校中退
高校入学資格検定試験合格
慶尚北道　安東高校中退
高校卒業の学歴検定試験合格
ソウル大学国語教育と中退

司法試験を受けるために苦労の末に入学したソウル大学を中退したが、結局、前述の連座制等が足かせとなり、司法試験に失敗している。

李文烈が多くの苦難を乗り越えて小説を発表した八〇年代は、朴正熙政権が七〇年代に推し進めた近代化の後、韓国人の生活が大きく変わった時代であった。七〇年代の小説の中に強い政治性が感じられたのに対し、八〇年代は、経済発展に取り残された人々、止まらない貧富の差の拡大のなかでの権力者と民衆の関係を作家が小説に投影させた。

「私たちの歪んだ英雄」で描かれた第五共和制は、一九八一年三月から一九八八年二月の第六共和国成立までの間の韓国の政体である。

大統領の全斗煥が、朴正熙の経済政策を引き継ぐ一方、大規模な体制改革を実施し、第六共和国の比較的安定した民主政治システムの基礎を築いたとされる。その一方、軍閥政治のさなかの権威主義的な統治に対する批判は今日の韓国でも行われている。

一九八八年開催のオリンピックのソウルへの招致による外交的な成功をおさめた一九八〇年代にはさまざまな重大事件が発生した。

一九八三年九月、ソ連(当時)による大韓航空機撃墜事件が発生した。一九八三年十月には、ビルマ(当時)を訪問中であった全斗煥大統領の暗殺を狙ったとされるラングーン事件が発生。これによって八〇年代初頭の南北朝鮮は緊張状態に陥った。

さらに一九八七年十一月の金賢姫らによる大韓航空機爆破事件が発生し、南北関係はさらに険悪化した。

対日本関係では、一九八四年九月、韓国大統領として初めて全斗煥大統領が日本を公式訪問した。内政面は、経済面での功績を上げることには成功したとされる一方、朴正熙の暗殺後に民主化への期待を高めていた韓国国民には、クーデターで政権を握った全斗煥ら新軍部が暗い影を落とし、政府に対する大規模な民衆による抗争が発生した。

一九八五年には光州事件における当時の政権の虐殺の真相が明らかになり、また人権蹂躙と権威主義的独裁に対し、民主化を求める国民が容赦ない批判を浴びせた。

李文烈の作品は、まさにこの激動の時代を大学生、若者たちと生きた小説といえる。

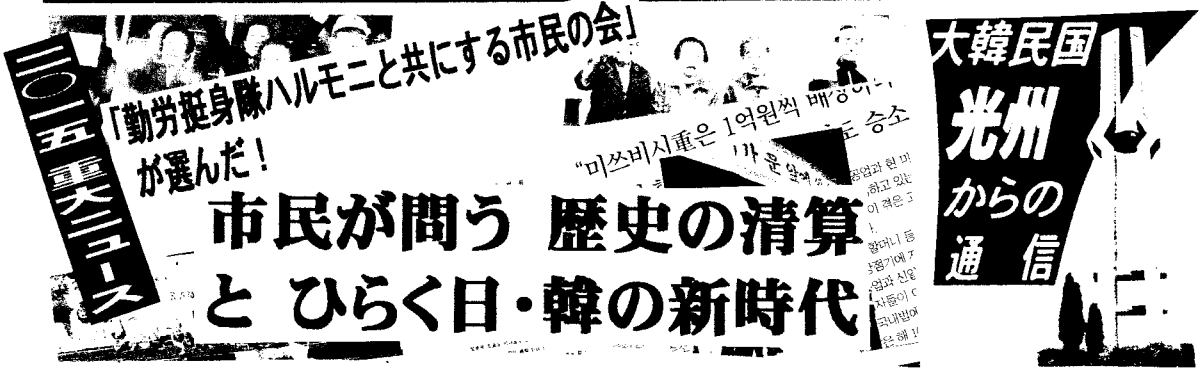
軍閥政治の時代が終わりつつあった一九九一年以降の李文烈は、なぜか講演活動、新聞寄稿、作品活動のなかで、保守主義の立場を代弁するようになった。

韓国の小説家・評論家であり延世大学教授であった馬光洙は一九九一年、メディアへの寄稿のなかで、李文烈の「大韓民国の読者の教養主義の傾向」を利用した「商業主義」と批判し、李文烈は馬光洙の作品について「吐き気を催す」と切り捨てている。馬光洙の作品は筆禍事件のきっかけとなった「楽しいサラ(즐거운사라)」(一九九一年)等がある。

そのほかに、「韓国型の過剰なフェミニズム」に対する李文烈の批判も、話題を呼んだ。

ギリシャ語で小説の題名を付けたり、何かと話題が多いが、一九八〇年代に多くの大学生、若者に時代の雰囲気に与え、大きな影響を与えた。

今後、別の機会があれば、一九七〇年代の韓国の代表的な作家についても触れていきたい。



★国民の憤怒、またも！　日本年金機構、キム・ジェリムさんら3人に厚生年金199円支給問題【2015.5～2015.11】

2009年の『99円事件』に引き続き、日本の厚生労働省傘下の日本年金機構が2月、訴訟原告であるキム・ジェリム、シム・ソネ、ヤン・ヨンスおばあさんに厚生年金保険脱退手当金を各199円（韓国貨1,850ウォン）支給。

★勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会、創立6年ぶりに単独事務室を開く【2015.3.12】

★被告三菱、露骨な引き延ばし策。名古屋三菱勤労挺身隊訴訟第二次提訴（韓国光州地裁）は空白二年。第3次提訴は空白一年。

★光州の訪日歴史紀行団、長崎空港で足止め。エンジン故障理由に、軍艦島に上陸できず【2015.6.3～6.7】

★勤労挺身隊訴訟原告ハルモニ、光州（クァンジュ）高等法院でも勝訴、'アリラン'歌って勝訴の感激分かち合う【2015.6.24】

★光州の長崎歴史探訪チームのメンバーが、日本入国管理事務所で『ブラック』扱い【6月羽田空港、8月富山空港】

★三菱マテリアルの過去清算、対米捕虜＝「謝罪」姿勢、対韓国徴用工＝「無視」姿勢【2015.7.19】

★韓日青少年平和交流、名古屋に続き、富山でも拡大運営

★チェ・ヒョンヨル氏(市民の会会員)、'親日清算'課題訴え、ソウルの日本大使館前で、焼身自殺で抵抗【2015.8.12】

★'原告に微笑を'...名古屋で韓日連帯闘争決議【2015.10.9-10.11】

訴訟中の梁錦徳、李東連、金性珠ハルモニと金中坤氏が10.9-10.11悔恨の地であり、闘争の原点でもある名古屋を訪問した。名古屋訴訟支援する会が、高齢と健康状態から、最後となるかも知れない『名古屋訪問』であった。朴海玉さんは身体不調で不参加。光州市民の会は、光州・全南市道議員、会員など22人の大参加団で臨み、地震犠牲者追悼碑での献花、そして行事に参加。200人の韓日関係者などは両国情勢を互いに共有する一方、最終勝利のために引き続き闘争して行くことを決議した。

★仁川市でも、来年から勤労挺身隊被害者支援条例実施きまる【2015.10.30】

『対日抗戦期強制動員被害女性勤労者支援条例』が制定され、2016.1.1から施行予定。対象は八名。2012.7月、光州広域市が初めて条例を施行以来、全羅南道、ソウル、京畿道につづき五番目の条例制定。条例制定の推進役となったインチョン地域市民団体は、東京不二越闘争とも連帯し、今後も関連事業をすすめるという。

★光州市教育庁、出張歴史講義～小・中・高で'勤労挺身隊'の授業【2015.11～12】

【勤労挺身隊ハルモニと共にする市民の会ＨＰから】

論評

朝鮮民主主義人民共和国
ピョンヤンからの通信

【編集者まえがき】本「論評」欄は、我が国とは未国交状態にある朝鮮民主主義人民共和国の立場や日朝関係を含む諸見解を理解できるように、同国の対外文化連絡協会（ピョンヤン）から日朝協会愛知県連（名古屋）に直接送られる情報・資料を紹介する欄です。

協商「妥結」に伸ばされた米国の魔手

朝鮮対外文化連絡協会

【朝鮮民主主義人民共和国・ピョンヤン 2016年2月16日 発】
原文 日本語。タイトルも原文のまま。

二〇世紀、朝鮮に対する日本の植民地軍事ファッショ統治と大陸侵略により産生した前代未聞の日本軍性奴隷問題が敵対勢力の不純な目的の実現に盗用されています。

昨年の十二月二八日、ソウルで発表された日本軍性奴隷問題に関する「合意」を機に米国と日本、南朝鮮当局はそれぞれ「成功」だの「歓迎」だの「支持」だの騒ぎ立てました。

合意ならぬ「合意」をめぐって尋常ならぬ方向へと展開されている米国と日本、南朝鮮の政治的・軍事的動きは、朝鮮民族と国際正義に対する重大な挑発であり、許し得ない特大型犯罪行為であります。

日本軍性奴隷問題の「合意」は徹頭徹尾、米国が同盟強化を狙い日本と南朝鮮を背後から操って作り出した陰謀の産物であります。

この数年間、米国は同盟強化のもっとも大きな障害の一つになっていた日本と南朝鮮の歴史認識での差異を減らそうとあくせくしてきました。

米大統領のオバマが日本と南朝鮮を交互に訪問しながら当局者に「妥協」を唆したのは秘密ではありません。

日本の当局者が、過去、アジア諸国に対する侵略戦争の認定と謝罪、反省を巧妙に回避しても目を瞑ってしらんぷりをしました。しまいには日本軍の性的なぶりものにされて恥辱を被った数多くの女性たちを「人身売買の犠牲者」と冒涜しても白をきりました。日本の仕草を支持してやりながら、今後、歴史認識問題において米国の政策に全的に従わざるをえないようにしたのです。

米国は南朝鮮当局者の米国訪問期間にも「歴史を振り返らず、前へ進まなければならない。」、「南朝鮮と日本との関係回復をねがう。」などと言いながら日本の過去の犯罪を伏せておくよう南朝鮮当局に圧力を加えました。

南朝鮮執権者の米国訪問が終わって間もなく日本と南朝鮮の「首脳会談」が開かれ、「日本軍慰安婦問題の早期妥結のための」交渉を加速化すると約束しました。

去る一月二日、ホワイトハウスの国家安全保障会議副補佐官が、オバマ大統領がその間、日本に過去の問題を解決するよう数回、促したと言ったのは「合意」がなされるよう背後からコントロールした張本人がまさに米国であると言うのを自ら暴いたのであります。

南朝鮮の新聞「ソウル経済」は、日本と南朝鮮間の「合意」の裏に米国の強迫があったことについて次のように書いています。

「朝日新聞は、米政府が『韓国』と日本に『慰安婦問題』妥結を強迫してきたと報道した。米国が『韓国』と日本を相手に水面下で関係改善を強く注文しながら問題解決を督励してきたということである。

オバマが昨年の十一月に開かれ

た日米首脳会談で日本首相に『韓国』との関係改善のために努力することを強調したと伝えられている。」

南朝鮮の新聞「ハンギョレ」は「『合意』後、もっとも喜んでいる国は米国だ」と暴露し、中国の新華社通信は「『合意』は米国の圧力の中で作られた政治的選択という側面がもっと大きい。」と評しました。

南朝鮮の新聞「プレシアン」は米国のある活動家の次のようなコメントを載せました。

「米国にとって『韓国』と日本の軍事的・政治的同盟は必要なものであったし、この同盟を妨害する最大の障害物は『慰安婦問題』であった。

結局、米国は世界覇権維持、日本は軍事大国化による過去の帝国の光栄の再現、『韓国』は米国への盲従という狂気に惑わされて数十万の女性たちの生命と人権、尊厳と名誉に関わる重要な問題の根源的解決を封じてしまった。」

ドイツのドイチェ・ベレ放送が「『合意』を通じて米国は北朝鮮と中国の影響力拡大に対抗した東アジア地域の前線の結束を狙った。」と報道し、英紙「ガーディアン」が「北朝鮮と中国の『脅威』に共同対処するために日本と南朝鮮間の和解を追求してきた米国にとって成功となる。」と伝えているのは日本と南朝鮮間の会談の裏に秘められた米国の真意が何であるのかを明白に示唆しています。

言論が評しているとおり、日本軍性奴隷問題の「合意」は、東北アジア地域で日本と南朝鮮を米国の侵略的な対アジア支配戦略実現の突撃隊として利用しようとするホワイトハウスの脚本と演出によって作り出されたものであります。

米国の対アジア支配戦略は、21世紀の世界征服戦略の中核であり、支柱であります。

本質においてそれは、この地域に対する限りない貪欲と支配野望を実現するための侵略と干渉戦略であります。

オバマ政権は執権後から侵略的な対アジア支配戦略を積極的に進めてきましたし、米国以外には「いかなる国もアジア太平洋地域を支配できないであろう」と豪語しました。

国家安保戦略報告書、国家軍事戦略報告書、日米防衛協力指針などで対アジア支配戦略、特に東北アジア地域で主な大国をけん制するための企図を露わにしました。

しかし世界の至る所で侵略戦争を挑発して軍事的に衰退し、長引く経済危機で財源が枯渇している米国がこの戦略を自分の力で実現すると言うのは真に力に余ることでありました。

ゆえに多者主義的「協調」を提唱しながら同盟強化を推進しています。

二〇一五年を日米「韓」三国軍事同盟、三者協調実現をめざす進展の年として定めた米国は、日本を「アジア太平洋地域と世界の繁栄を導く主導的役割を果たす勢力」として煽てながら「自衛隊」の海外軍事作戦範囲を全方位的に拡大するようにしました。

南朝鮮に先端兵器を引き入れ、原子力協定を改正するなど軍事力をさらに強化するようにしました。

米国務長官をはじめ政界と軍部の好戦勢力は日米「韓」の未来志向的関係で障害が除去されたと快哉を上げています。

「ニューヨーク・タイムズ」をはじめ主要メディアは、両同盟国が東北アジア地域の「安保」のための米国の戦略実現に積極的に寄与するであろうと評しました。

中国のインターネットサイトである香港の鳳凰網が「『慰安婦問題』は『韓』日関係で目の上のこぶのような存在だった。これは『韓国』と日本を同盟者としている米国にとって頭痛の種であった。ここ数年間、米国はアジア再均衡政策を推進してきた。この延長線上で同盟国である日本の再武装に拍車を掛けてきたが、米国のまた一つの同盟国である『韓国』が日本の動きに強く反対しながら不協和音を出していたのである。」と伝えているのは、日本軍性奴隷問題の「合意」によって米国の対アジア支配戦略がよりスムーズに強行できるようになったことを評したものであります。

「合意」後、米国の戦略国際問題研究所は米議会の要請によって国防省とともに作成したアジア太平洋地域の軍事力均衡に関する報告書で、同盟および協力勢力との安保力量を強化し、地域の軍事力

を維持するレベルではなく、持続的に増強することを強調しました。

米国はわが共和国をロシア、中国、イランとともに「米国の安保を脅威」する四大国家の一国として指定し、共和国の軍事的「脅威」と「挑発」を抑制するという名分を同盟強化の必要性に掲げています。

米国が騒いでいる「北朝鮮脅威論」は、アジア太平洋地域での覇権的地位を維持し、諸大国の周辺に障壁を作ろうというホワイトハウスの方便に過ぎません。

米国はわが共和国の「挑発」に対処するために同盟構築が必要であるように力説していますが、実際においては自らが指定した「四大脅威国家」の中で東北アジア地域に位置している三つの政治的・軍事的大国の力が強く成るのを抑制し、対アジア支配戦略を円滑に実現しようと目論んでいます。

米国務省の副長官が「米国が日本軍性奴隷問題の解決を促したのは単に日本と南朝鮮が仲良くなるのを願ってのことではなく、軍事的に経済的に急成長している北朝鮮と中国などの挑発を牽制するためであった。

また彼の理由で、オバマがここ数年間、日本と『韓国』の首脳と会う度に、ほとんど欠かさずこの問題を取り上げてきたのである。」と発言したのはホワイトハウスの魂胆を如実に表しています。

実際に「合意」後、日米「韓」の軍事的動きは本格化されています。

一月一五日、誘導ミサイル巡洋艦「モービルベイ」号と誘導駆逐艦などを含めた米核航空母艦「ジョン・ステニス」号艦隊が朝鮮半島周辺と東北アジア地域に長期駐屯するために出航しました。

核航空母艦艦隊の東北アジア地域への進出が「北朝鮮に威力を誇示し、中国南海の紛争と関連して友邦を支援するためのもの」であり、「同盟国とともに様々な訓練に参加し、統合力量を強化する」というマスコミの報道は、この進出が米国の対アジア支配戦略による新しい戦争挑発のための危険極まりない動きであることを示唆しています。

米軍の特殊偵察機がわが共和国に対する偵察行為を毎日のように行い、米国の三大核打撃手段の一つである「B－52」戦略爆撃機が東北アジア地域を頻繁に飛び回り、米空軍の「F－22」最新鋭ステルス戦闘機が日本の米軍基地に配備されました。

昨年、わが共和国の核、ミサイルを探知して破壊するための戦争シナリオとして米国と南朝鮮が作成した「4D作戦計画」を今年、最大規模で行われる「キー・リゾルブ」合同軍事演習期間にはじめて適用しようとしています。

諸般の事実は、日本軍性奴隷問題の「合意」は、米国がわが共和国に対する侵略とアジア太平洋地域、ひいては世界制覇野望を実現するために戦争同盟である日米「韓」同盟を合法的に稼働させるためにつくりあげた供物に過ぎないというのを実証しています。

米国の露骨な同盟強化策動のため朝鮮半島は言うまでもなく東北アジア地域には戦争の暗雲が漂っています。

侵略と戦争で世界を制覇しようとする米国と「正常国家」に成り済まそうとする日本の野望は昔も今も変わっていません。

強権と狡猾さ、卑屈さで特徴付けられる日本軍性奴隷問題の協商「妥結」は、戦争勢力の不純な目的実現のために朝鮮民族と人類の良心を踏みにじって愚弄した二一世紀の特大型政治詐欺行為であります。

日本軍性奴隷被害者は朝鮮半島の南だけではなく、北にもいますし、他のアジアの国々とヨーロッパにもいます。

被害者だけではなく、被害地域の国と民族は国際的な反人倫犯罪を犯した日本が過去の清算を正しく解決することを一致して要求しています。

国際正義に反した敵対勢力の罪業は世紀を継いでも必ず決算しなければなりません。

侵略と戦争に反対し、正義と真理を大事にするのであるなら、誰もが敵対勢力の同盟強化策動の反動性と危険性を正しく見抜いていささかも容認してはならないでしょう。

《米国の軍事圧力→朝鮮のリアクション→「制裁」強化》。この危ない循環を断ちきり、東アジアの平和を展望・実行する外交に、何故舵を切れないのか？ ご意見とご議論を。【編集部】

自主権の化身

水爆実験・「朝鮮政府声明」を読む

金 宗鎮（在日朝鮮社会科学協会）

一月六日の水爆実験に関して、朝鮮政府は「朝鮮半島の平和と地域の安全をして確固として保障する」ものとの声明を発表しました。

それを受けて日本は、「北東アジア及び国際社会の平和と安全を著しく損なうもの」と安倍首相の声明を出しました。

マスコミ各紙は、朝鮮政府『声明』を全文載せることもなく（『読売』紙は掲載）、問題の現状も展望もなく、ひたすらに制裁強化の一点張りでした。

「民はこれに由らしむ可し。これを知らしむべからず」か。日本国民は不安と不信の中に投げ込まれた状況です。マスコミ各紙に解決策らしきものとしては、「中国がキーである」論でしょうか。

確かに中国も反対を表明しています。ところが、記者会見の場において、「朝鮮の核の原因も、問題解決のキーも、中国ではない」と述べています。

去年の九月十九日に中国国際問題研究会が主催した「6者協議十周年研究会」で王毅外交部長のスピーチがあります。

…国連加盟国は…国連の決議を履行する義務がある。情勢の緊張をもたらす新たな行動をとらないよう呼びかける。非核は…朝鮮が長年にわたって直面して来た巨大な軍事的圧力を重視…朝鮮の合理的な安全保障上の関心を解決し…朝鮮半島関係者が平和条約を…安全保障に関する解決が要諦である。…

ここには問題解決への配慮が見られます。

1 朝鮮政府の『声明』を読む

(1) 核技術の新たな水準

『今回の水爆実験は我々の核武力発展のより高い技術である…水爆を保有し、核保有国の前列に立つことになった。』

[声明]

第一回目の核実験から十年目にして、水爆の保有はおどろくほどに早い技術の開発です。

ICBM弾頭の小型化、軽量化と移動式ICBM、そしてSLBM（海中発射）の成功。朝鮮の科学技術力では到底不可能とあなどった米国にとっては大きな衝撃でしょう。

また、米国の一方的な核威嚇の制裁論といえば、ニューヨークタイムズですら、『朝鮮は世界で最も制裁を受けた国だ』のように、し尽くした感があります。

朝鮮制裁を唱える米・日は共に朝鮮を国家として承認しません。なぜなのか？ 敵対の背景等を考えて、まずは朝鮮政府声明の内容に立ち入ります。

恐怖から解き放たれた故か、朝鮮は『核抑止力を備えた尊厳ある民族である』と高らかに宣言しています。耐え難い重圧に抗する雄叫びでしょうか。

朝米の力量は余りにも非対称的です。軍事予算は約四〇〇対一です。並の方法では太刀打ちできないパワーへの雄叫びです。

米国のパワーを前にして、朝鮮の対策を時間系列で見れば、

①非核化地帯の創設提案

②ベトナム戦争から全国の基地化（核シェルター、軍事施設の地下化、等）

③ＮＰＴ加入（と脱退）
④核保有（「イラクの次は朝鮮だ」との米ブッシュ・ドクトリンに対抗）

以上の経過をたどっています。

(2) 核によって、からくも「平和維持」

『我が共和国が行った水爆実験は、米国をはじめとする敵対勢力の、日を追って増大する核の威嚇と恐喝から、国の自主権と民族の生存権を堅く守り、朝鮮半島の平和と地域の安全をゆるぎなく保障するための自衛的措置である』［声明］

帝国主義の時代と続く冷戦時代の終焉は世界に新しい潮流を創り出しました。

論者は言います。

「…超大国の…覇権秩序の正当性は失われた。」（鴨武彦）

「大半の国々の政治的指導者や知的リーダーは一極体制の世界という展望に対して抵抗し、真の多極体制の出現が望ましいと考えている」（ハンチントン）

各国の多極化（世界の自主化）の主張は当然ながら、受難の道を歩み、闘った人達の声です。特に朝鮮半島はその典型の最たる地域であり、闘いの歴史を体験しました。

すなわち、国の独立、民族の生存権、自主権の行使は「生命であり、尊厳である」ことを血潮の中で体得しました。

逆に受益者たちは、「この急激な変化は現状維持の利益を損ねかねない脅威と見なした。」

「日本では朝鮮半島の地政学的変動は、安全保障や北東アジア全域の秩序を揺るがしかねない不安定要因と見なされていた」。（姜尚中「日朝関係の克服」集英社）

要するにグローバル化と多極化、覇権と自主の構造的矛盾の噴出です。日本は前者の側にあり、日米安保によって外交は米国の外交に追従しています。核問題も例外ではありません。

「木を見て森を見ず」という言葉があります。日本国民の核被爆体験はアジアの非核化に大きな力になり得るはずだが、今も「核のカサ」の中にあって、「核の森」を見ることができません。

からくも北東アジアは、米国の核と朝鮮の核のパワーバランスで「平和でもない，戦争でもない」状況にあります。

朝鮮半島と周辺の平和は、かりそめの平和にしかすぎません。

(3) 度を過ぎた米国の朝鮮敵視

『この世に敵視というものが生じて以来、米国の対朝鮮敵視のように、これほど根強く、暴虐非道で執拗なものは先例がない』［声明］

敵視は朝鮮民主主義人民共和国創立（一九四八年）以来から今日に至っています。

『思想と制度が異なり、自己の侵略野望に屈従しないとして…政治的孤立と経済封鎖、軍事的圧力を加えたあげく、核の惨禍までもたらそうと狂乱する…米国である。』［声明］

『原子力空母打撃群と核戦略飛行隊を含むすべての核攻撃手段が絶えることなく投入されている。朝鮮半島とその周辺は、世界最大のホットスポット、核戦争の発火地点になっている。』［声明］

去年、ヨーロッパで行われたＮＡＴＯの「迅速反応１５」合同演習の兵力は十一カ国五千人でした。しかるに米韓の「乙支・フリーダム・ガーディアン」合同演習には八万余人が参加しています。

大規模演習が何と四十年間続けられています。（今後日本の参加もあり得る）

そのつど、朝鮮は身構え、工場のモーターは一時ストップし、軍は配置に移動し、戦時態勢に入ります。このような話を、私は訪朝二〇回の中で、高位高官、知人、身内から耳にしています。大国によって、「平和」がふるえていました。米国の狙いはなんでしょう？

『米国は敵対勢力を糾合して各種の対朝鮮経済制裁と謀略的な「人権」騒動にしがみついて、我々の強盛国家建設と人民生活の向上を阻み、「体制崩壊」を実現しようと躍起になって狂奔している。』［声明］

ずばり「朝鮮つぶし」がねらいです。

『自分らしく生きる（朝鮮らしく生きる）』という朝鮮を米国は嫌悪します。

米国の「民主主義」に反する国々を意にそまぬとして、軍事力で攻撃してきました。（失敗の連続）

各国の理念（宗教）と体制は、それぞれの国民の選択にまかせるべきです

(4) 朝鮮の核政策

①敵対には核保有を強化する。

『…正義の水爆を保有したのは主権国家の合法的権利であり、だれにも言いがかりをつけられない正々堂々たる措置となる。』［声明］

自己の命運は自力で守る。オオ

カミの群れを前にして猟銃を手放すことはない。と声明は言います。

②先制使用、核技術の移転はない。

『敵対勢力が我々の自主権を侵害しない限り、すでに宣明したように先に核兵器を使用しないであろうし、いかなる場合にも関連手段と技術を移転することはないであろう。』「声明」

朝鮮の核政策は、只の一点、米国の核威嚇への盾です。異常な現状のために、朝鮮半島の平和と地域の安全を保障は、核保有によってのみ可能、との認識です。

ここでいう「朝鮮半島の平和」とは、北のみならず、南をも含めています。

「北南高位級」会談において、北側は南側の代表に「我々の核は南の人民をも核禍から守護するもの」と発言がありました。

この話を私はピョンヤンで北側代表から聞きましたが、後日の座談会で、南側の前代表（丁世鉉統一部長官）からも聞かされました。

2　非核化への道は「平和協定」から

(1)二〇一五年、米国による米・日・韓軍事力の再編成

北東アジアに激震が走りました。日本に「戦争法」が成立し、米国の戦争に日本自衛隊が参戦する新事態に北東アジアは息をのみ込みました。

そんな中で三年以上も難航した韓国朴大統領と日本安倍首相の会談が（両国の障害案件も何のその、一気に吹き飛ばし）電光石火のように行われました。

中谷防衛相の訪韓が首脳会談の直前にあり、…自衛隊の北朝鮮への出兵の場合、韓国への通告は不必要との発言があったにもかかわらず、韓国内で政治問題化があえてされませんでした。（重大な主権侵害！）

ワシントンによる米・日・韓の軍事同盟再編が最優先されたのです。（日韓に自主権なし！）

慌ただしく、朝中会談、中台会談がとり行われました。そして朝鮮の水爆実験が強行されました。

北東アジアは軍事力シフトの新局面を迎えたようです。まさにこれらは、米国によって演出された新事態の様相と言えるでしょう。

東大名誉教授和田春樹は「…隣国の人々がたとえ政治体制はどうあれ、民族的なプライドを持っていることの認識を持たず、その人々を徹底的に辱めるトーンの報道を繰り返すということは、公共放送として許されないことである。…日本は北朝鮮と開戦前夜にあると外国人が錯覚しかねない状態である」（『日本・韓国・北朝鮮・東アジアに生きる』青丘文化社）と日本のプロパガンダに危惧を表していました。（これは「戦争法」成立の社会意思の素地となる！）

その危惧は、現実化に向けて大きく動きました。「戦争法」の成立によって、朝米戦争が勃発すれば、日本自衛隊が参戦する羽目に至る、何たることか！　植民地支配の後始末もできていないのに再出兵なのか！　何たることか、米国のために自国民の生命を差し出すなんて！

それにつけても『戦争法』が大半の国民の意に反したクーデターのように成立したのも驚きながら、国民意識の「侵略の加害よりも、こうむった被害意識からの拒絶」、すなわち「殺したくない」よりも「死にたくない」が先にあるように思われて、歯痒い想いをします。あたかも、国内問題を論じているようです。

(2)国の「自主権」を考える

朝米の敵対の原因は、米国の朝鮮国不承認、その理念と体制を否定して、「力ずくでつぶす」という米国の理念と政策にあります。世界各国は、自らの理念と体制を自ら選択し主権を確立します。

主権国家は内外の政策を自ら定めて、自主権として行使します。

ここで、こと自主権を中心に、東アジアの国々のランク付けをすれば、朝鮮、日本、韓国の順になるでしょう。日本は経済力ではダントツながら、外交は米国に追従、国内に米軍基地を置いています。B級です。韓国は軍の統帥権をも米国に握られています。C級です。

朝鮮は、外国軍基地を置きません。冷戦時代にあっても、ソ連工業の下請け化を拒否、不凍港の提

供要求も拒否、中国の文化大革命を評価しない（断絶状況）、社会主義市場も選択的評価）、最近ではモランボン楽団の北京公演をドタキャンしました。友好国にも主張すべきはする外交を展開しています。

たしかに日本は日米安保の庇護の下に世界有数の経済大国となり、「平和」の中にまどろんでいます。しかしその代償は大きすぎました。

米国の理念、戦略に安住して、自らは思考停止状態に陥ってしまいました。七〇年間の追従は、北東アジアの外交に関しても、米国に物申す資格を消失してしまいました。

米国の「友人」ならば、より大きな役割を果たしていたはずです。「格下の悲哀」を感じます。

『徳不孤 必有隣』（論語～徳は孤ならず 必ず隣有り＝本当に徳のある人は 孤立したり、孤独であるということはない）と言いますが、日本には東アジアの友人がいません。あるとすれば 競争者か敵対者かの関係ばかりです。

朝鮮に関する、日本の評価と国際社会の評価にも、ずれがあります。

英国の放送局ＢＢＣの国家イメージ調査で「各国は、世界によい影響を与えているのか？」の調査が行われました。（二〇一三年）

朝鮮は一九％とイスラエルの二一％とさほど変わらない結果だそうです。（日本で行えば限りなく〇％に近いでしょう）

七〇年の間に、独自に日本が朝鮮との関係改善でなすべきことが多くありました。しかし日本は関係維持さえ持てず「断絶の七〇年」の無策状態にあります。米国の「朝鮮つぶし」の戦略にすっぽりおおわれて、網の目から一歩も抜け出せません。自主権の影すら感じられません。

朝鮮の自主権に話をもどします。

世界最強にして、軍事力をほしいままに行使する米国に対して、「筋は通して物申す」との立場をくずしません。

停戦協定を「平和協定」にしよう。外交関係を正常化しよう。そして非核化に応じよう。核威嚇には核の抑止で応じよう。と論理的にかつ倫理的な対応を見せています。ただし、これは命がけの提案であり、自らの生存を賭しての覚悟と備えを要します。これこそが朝鮮の自主権です。

その思想哲学が民族自主意識（『主体』）思想です。『自分の国の主人は自分である』との哲学的命題は、民族の歴史の中から発見され、創造されたものです。すなわち、長い中国への事大主義の時代、日本に隷属した時代、大国支配の冷戦時代から闘い学びとった思想です。朝鮮の力の源泉はまさにこのソフトパワーにあります。このソフトパワーを根幹として、政治体制を成し、自衛力を保っています。

日本は米国の思考方式から自立すべきです。

小倉紀蔵京都大学教授は最近『北朝鮮とは何か』（藤原書店）で興味深い問題提起をしています。

…米国はその世界戦略上北朝鮮を邪魔な敵と見なす理由を持つ。しかし冷静に考えてみれば、日本には北朝鮮をそのように見なさねばならない強固で普遍の理由は存在しないのである。結果日本の国益に対する損壊が生じている…日本はもっと自由に北朝鮮を認識してよいのである。その自由を放棄するのは主権国家としての振る舞いとして正しいと言えないはずだ。…と

北東アジアの平和問題のキーは、中国にあらず、むしろ日本が握っていると言えます。日本は自主権をとりもどし、日朝国交問題に自主権を以て臨むべきでしょう。

東京オリンピックを、その成果をもってかざるならば、ノーベル平和賞ものでしょう。

これから出版
〒441-8052 愛知県豊橋市柱三番町79
Tel.0532-47-0509 Fax.0532-47-3109
E-mail korekara09@tees.jp

もっと知りたい
もっと交流を！

筆者の絵画作品『選挙に行こう』(25号)

民意を政治に

選挙権のある方は投票に行きましょう

みゆき まなぶ

憲法前文「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたつて自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであつて、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基づくものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。……」

投票に行きましょう、なんて今更いうことでもないでしょう、と思われるかもしれませんが、私の記憶している範囲では、多くの選挙の投票率が五〇％前後(それ以下の例も)にとどまつているのを残念に思つています。

私は、どこの党の誰に投票するのかを言いたいのではありません。国民主権の証でもある選挙権を持っているのに、半数に及ぶ方々が投票をしないのでは、真の意味での民意ある行政が行われているのかどうか疑問に思うものです。

国民の代表者を「政治屋」にしないためにも、自分の感じた、そして信じた候補者に投票しに行く事を、選挙権を持つ方々に望みたいと思います。

イモ（おば）たちのこと

わたしと誕生日

（2）

R・S

叔父は外祖母（母の母）のつれ子で、後に母の叔父の娘と婚姻して、六人のいとこをなした。

オモニ（母）は外祖母のつれ子の兄の外に、二人の弟と四人の妹達の長女であった。総勢八人の兄弟姉妹で、その当時としては普通であったろう。

オモニは一九一九年三月二七日生まれで、四人の妹（S子、A子、T子、H子）は一九二四年から一九三〇年迄の生まれだ。

S子の婚約者は戦死した。

A子、H子は…、結婚する相手となるべき男子は兵隊にとられて、ほとんど戦死してしまい、伴侶となるべき男性の絶対数が少ない状況で、どうなったか？

A子は（名古屋市中区）白川公園にあった、米軍のPX（酒保）でウエートレスとして働くうちに、朝鮮戦争にかり出されてきたチャールス・ジョンソンという青年と知り合い結婚、（同区）車道の医師宅の二階に住みはじめ、貯金ができたといって（千種区）覚王山の大きな家の離れに移り住んだが、「学校が残っているではないか」と説得され、親子三人でアメリカに渡った。ほんの一年のつもりが、今日に至っている。

この間、一度だけイモ一人で帰ってきた。訪日だ。私も（名古屋市外）新川に引っ越してきていたので、私の提案で、ささやかな宴を実家で設けた。イモは後々大層喜んでくれたと知った。

子どもは『小チャーリー』と言い、デボラという妹もウイスコンシンで生まれた。今、私とは交流がない。

S子イモはその後、縁あって娘を成し、その娘が大学の先輩と結婚。大手企業に勤める婿殿の勤め先大阪に従っていった。長いこと子がなかったが、遅がけに女の子に恵まれ、私の連れ合いの葬儀には来てくれた。わが子らとは交流があるようだ。

七つ違いのH子イモは、終戦時に女学校を卒業していた。その後華僑の事務所に勤めるようになって、台湾から名古屋の八高に来ていた留学生と知り合った。それが李茂勲。

その叔父は卒業すると、中国からの帰還者を迎えるために大陸に向かう空船の『興安丸』に乗船して「大陸」へ帰国した。

H子イモは、日本・日本人が中国・中国人に何をしたかも知らないまま、叔父の後を追って、中国へ渡った。

叔父は「天津科学肥料工場」の技師として、イモは事務職として同じ工場で働き始めた。中国「文化大革命」より、ずっと以前のことである。

投稿歓迎

月刊『日本と朝鮮／愛知版』メモ

●記事・原稿は、随時受けつけています。毎月、十五日ごろまでにお寄せ下さい。書評、時評、話題など歓迎します。
●身近にある交流・お付き合いの情報をお寄せ下さい。

いま面白い市民運動の情報誌 グループ紙誌 拝見

●半田・戦争を記録する会通信（No.六四＝二〇一六・一・一〇）【発行＝同会／半田市】

○『半田の戦争記録 第三集』刊行～戦争体験Ⅱ学び、反戦・平和の力に
○東南海地震犠牲者追悼行事（十二月七日）～七一年前の動員中の恐怖を語る＝半田市雁宿公園平和祈念碑前
○半田市内の5小学校で『出前平和授業』（半田市総務課企画）▽一五・九・六、亀崎小三年（一二〇人）▽一五・九・一七、板山小六年（五十人）▽一五・一一・一七、花園小（一五〇人）▽一五・一二・二、有脇小六年（三十人）▽一六・二・一二、岩滑小六年
○好評の市内戦跡見学会（八月一日、半田市主催、第一一回）ほか

●革新・愛知の会（第二四九号＝二〇一六・二・一〇）【発行＝平和・民主・革新の日本をめざす愛知の会／名古屋市熱田区】

○【インタビュー】五島良子さん（シンガーソングライター）「人生で初めてデモに参加、同じ思いの人と繋がった！～ひとり一人の声で政治は変えられる」※五島・作『君知りたもうことなかれ』
○戦争法の廃止を求める二〇〇〇万署名推進学習交流会＝布施祐仁講演～戦争法を廃止し『安倍改憲阻止』の世論を多数派に
○《多数派めざして》竹内一馬さん～八二日間、毎日昼休みデモ　ほか

●草の根（第三六二号＝二〇一六年二月六日）【発行＝原水爆禁止愛知県協議会／名古屋市東区】

○国は、残留放射線や内部被曝の過小評価を改めよ！ 司法判断との乖離を改め、原爆症認定基準の抜本的改定を！ ノーモア・ヒバクシャ愛知訴訟へのご支援を！　…樽井直樹
○《草ノート》在韓米軍第2歩兵師団所属で南北軍事境界線付近に駐屯展開する歩兵大隊が、昨年米国ワシントン州で行った軍事演習に、名古屋市守山区に駐屯する日本自衛隊第十師団が参加した。「朝鮮有事」を想定した訓練で、戦争法が企む米軍の戦争への参戦準備でもある。＝抄＝　ほか

第9回強制動員真相究明全国研究集会
「朝鮮人強制労働と世界遺産問題」

2016年3月5日(土)13:30～17:30
場　所　愛知労働会館・東館
参加費　1000円(一般1000円　学生500円)

開会あいさつ　飛田雄一さん（強制動員真相究明ネットワーク共同代表）

特別報告

①「朝鮮女子勤労挺身隊調査（追悼記念碑～99円、199円問題まで）を通じて『解決済み論』の誤りを糺す」
小出裕さん（名古屋三菱・女子勤労挺身隊訴訟を支援する会事務局総務）

②「地方僻生の日記から見た強制動員の実態」
金敬詰さん（韓国民族問題研究所責任研究員、太平洋戦争被害者補償推進協議会執行委員長）

各地域の報告

「三菱重工業・三菱鉱業と強制労働　一長崎の産業革命遺産を中心に」
竹内康人さん（強制動員真相究明ネットワーク会員）

「戦時下の三井三池炭鉱と外国人労働者」
廣瀬貞三さん（福岡大学）

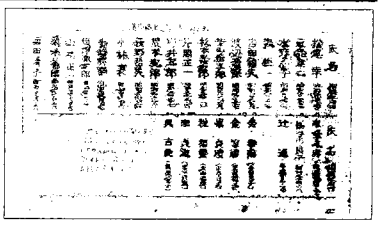
「観光スポット、歪められた教育資料として宣伝される『「明治日本の産業革命遺産」八幡製鉄所」
兼崎暉さん（八幡製鉄所の元徴用工問題を追求する会）

「釜石と歴史の継承一世界遺産登録問題から考える」
山本直好さん（日本製鉄元徴用工裁判を支援する会）

閉会あいさつ　高橋信さん（名古屋三菱・女子勤労挺身隊訴訟を支援する会共同代表）
18:00～　懇親会　　会費　3000円

2日目フィールドワークのご案内

1944年12月、折しも起こった東南海地震で犠牲となった三菱名古屋工場の犠牲者のネームプレートには、女子勤労挺身隊として強制連行され工場の建物の崩壊により圧死した6名の少女たちの名前はなかった！



集合日時：　3月6日（日）午前8時50分
集合場所：　JR名古屋駅新幹線口
参加費　：　1000円（資料代・バス代）
コース　：勤労挺身隊寄宿舎跡→旧三菱重工名古屋航空機製作所道徳工場跡→勤労挺身隊犠牲者を含む東南海地震追悼記念碑：名南ふれあい病院→三菱重工殉職碑→名古屋空襲跡を車窓から
解　散　：　正午ごろ　名古屋駅新幹線口

主　催　強制動員真相究明ネットワーク
共同代表　飛田雄一　庵逧由香
〒657-0064　神戸市灘区山田町3-1-1（財）神戸学生青年センター内
ホームページ：http://www.ksyc.jp/sinsou-net/

【表紙＝三浦雅子】

日本と朝鮮／愛知版　2016年 2月(392)号
■発行／日朝協会（発行責任者＝石橋正夫）■昭和28年11月30日 第三種郵便物認可
■編集／愛知県連合会事務局■464-0853 名古屋市千種区小松町6-9-1■T/F 052-731-9445
■E-メール=y-koide@mse.biglobe.ne.jp■サイト=http://www.aichi-nicchyo.com/